

事業概要シート

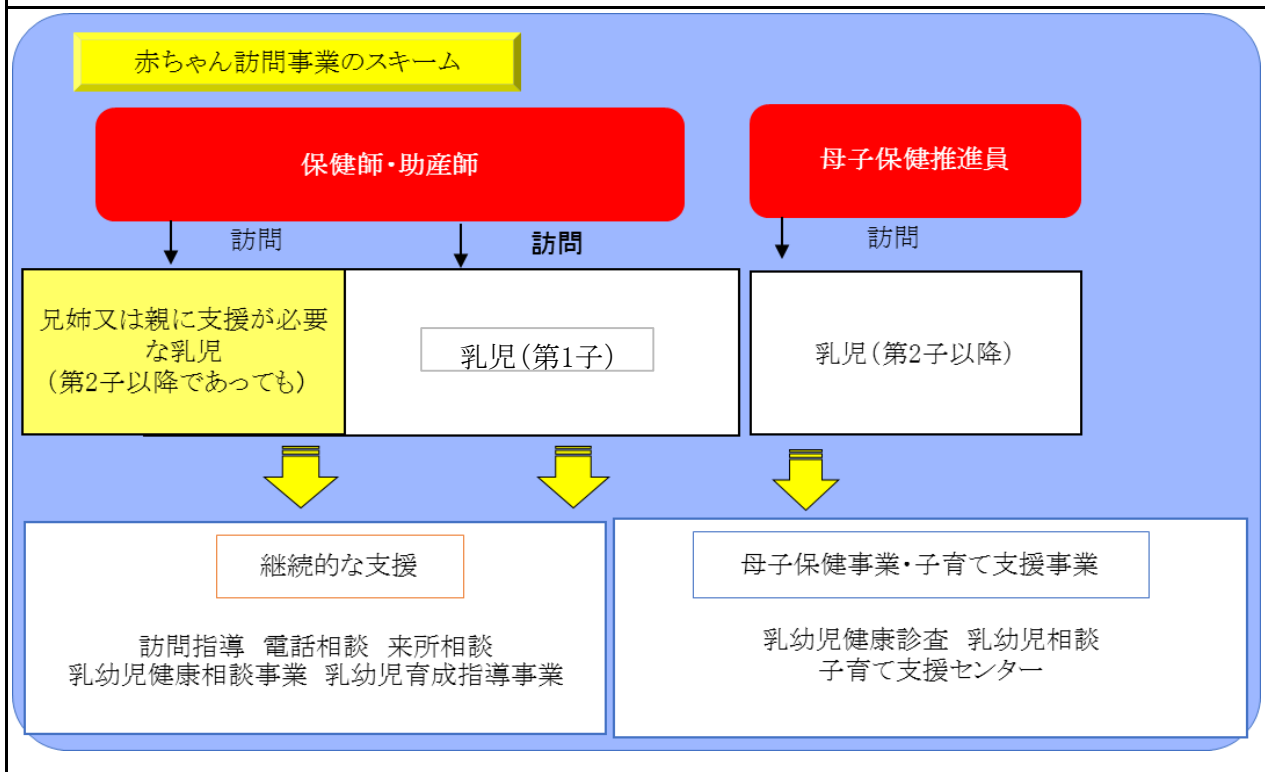
施策 0102 親と子の健康増進

<>の金額 補正予算要求時…当初・繰越予算の合計額
 新年度予算要求時…当初・繰越・補正予算の合計額

事業名	赤ちゃん訪問事業（妊産婦・新生児等訪問指導事業）	現状維持	予算額	7,145 千円
			<< >>	7,221 千円
事業期間	平成19年度 ~	財源内訳	国庫支出金	2,029 千円
根拠法令要綱等	母子保健法、第2次健康おおむら21計画、子ども・子育て支援交付金要綱		県支出金	2,029 千円
			地方債	千円
			その他	千円
		一般財源	3,087 千円	

【事業の目的・概要・対象】

保健師・助産師が第1子、母子保健推進員が第2子以降の乳児家庭を生後4か月までに訪問し、育児の状況等を把握し、乳児の順調な発育を支援する。また、出産後の母親の体調管理を含め、育児への悩みの相談や、子育てに関する情報を提供する。支援が必要とされる家庭については、子育て支援事業の情報提供、母子保健事業の案内など、継続した支援を行う。訪問できなかった家庭に対しては、保健師が継続的に連絡を取り対応する。



【背景】

近年は核家族化が進み、親族と離れたところで妊娠・出産することが多くなっている。さらに、社会心理的背景から親と子の関係に様々な事情を抱え、親を頼れない妊産婦が少なからずいる。一日の多くを一人で子育てしている家庭も多く、乳児の健やかな発達のためには、育児に関する不安や悩みを解消し、様々な関係機関が支援を行うことが重要となっている。

担当課	こども未来部こども家庭課	課長	西村 隆
担当者	松崎 さつき	問合せ先	0957-54-9100

事業概要シート

【活動指標】

指標名		単位	H28 (実績)	H29 (実績)	H30 (目標)	H31 (目標)	H32 (目標)
①	赤ちゃん訪問実件数（保健師・助産師）	目標値 件	593	599	600	600	600
②	赤ちゃん訪問実件数（母子保健推進員）	目標値 件	371	302	348	348	348

【成果指標】

指標名		単位	H28 (実績)	H29 (実績)	H30 (目標)	H31 (目標)	H32 (目標)
①	保健師・助産師訪問率	目標値 %	98.3	92.6	98.3	98.3	98.3
②	母子保健推進員訪問率	目標値 %	95.1	93.5	94.3	94.3	94.3

【予算・決算】（千円）

事業費は当初・繰越・補正予算の合計額

年度	H28	H29	H30	H31	H32	H33	合計
事業費	1,518	1,806	7,221	7,145	7,159	7,159	32,008
国庫支出金	270	250	2,029	2,029	2,029	2,029	8,636
県支出金	270	250	2,029	2,029	2,029	2,029	8,636
地方債							0
その他							0
一般財源	978	1,306	3,163	3,087	3,101	3,101	14,736
人件費	5,714	7,099	7,312	9,414	9,414	9,414	48,367
職員(人)	0.75人	0.68人	0.72人	0.75人	0.75人	0.75人	4.40人
時間外勤務(h)	130h	152h	113h	130h	130h	130h	655h
嘱託員(人)	0.00人	1.00人	1.00人	2.00人	2.00人	2.00人	8.00人
フルコスト	7,232	8,905	14,533	16,559	16,573	16,573	80,375

妥当性 (市の関与)	全ての乳児家庭を訪問し、支援が必要な家庭の早期発見・早期支援を図ることにより虐待等の防止につなげることができる。また、母子保健事業・子育て支援事業とを関連させて支援を継続することが必要である。
有効性 (施策貢献度)	育児に関する不安や悩みを傾聴するとともに、子育て支援に関する情報提供を行うことにより、乳児の健全な発達育成につながっている。
効率性 (コスト)	第2子以降は、母子保健推進員に訪問してもらい、コストの削減に努めている。母子保健推進員は、地域内の家庭を訪問しており、身近な子育てサポーターとして活動している。また、スキルアップのため、年に1～2回の研修を行っている。

1次評価	担当者の記載のとおり
2次評価	1次評価のとおり